

令和 7 年度入学試験問題

歴史総合・日本史探究

(文 学 部)

(注 意 事 項)

1. 問題冊子は指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は 14 ページ，解答紙は 4 枚あります。「始め」の合図があったら，それぞれを確認すること。
3. 各解答紙の 2 箇所受験番号を記入すること。
4. 受験番号は，裏面の記入例にならって，マス目の中に丁寧に記入すること。
5. 解答はすべて解答紙の指定欄に記入すること。
6. この教科は，100 点満点です。

受験番号の記入例

A B D E G H I K L M P S T W Z

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

歴史総合・日本史探究

〔 1 〕 次の文章を読み、問 1 ～問10 に答えよ。(25 点)

縄文時代の人びとは、呪術や儀礼によって災いを避けようとし、また豊かな収穫を祈った。主に女性をかたどったとみられる土偶や、男性の生殖器を石で表現した ア は、そうした呪術や儀礼の発達を物語る。また イ の風習は、一種の通過儀礼と考えられており、縄文時代の中頃からみられ後期・晩期に盛んに行われた。

弥生時代の祭りには、銅剣・銅矛・銅戈・銅鐸などの青銅製祭器が用いられた。銅鐸や大型化した武器形の青銅製祭器は副葬品として個人の墓に埋められることはほとんどないことから、集落の人びとの共同の祭りに用いられたと考えられている。それらの青銅製祭器は、山腹などにまとめて埋められる場合があった。

玄界灘に浮かぶ ウ ^(a)からは、4 世紀後半から 9 世紀にわたる各時期の豪華な奉獻品や大量の祭祀遺物が出土している。古墳時代から古代にかけて、日本列島と朝鮮半島との間の海上交通の安全を祈願した祭祀が行われたと考えられている。

蘇我馬子が飛鳥寺を創建して以降、日本列島の各地で仏教寺院が造営された。奈良時代には、遣唐使の留学生や学問僧により儒教や仏教、^(b)法律などの多くの書物と知識が伝えられるとともに、国家の保護を受けて仏教がさらに発展した。聖武天皇の時代には、エ の思想のもと、国分寺・国分尼寺の建立や東大寺^(c)の大仏造立などの事業が行われた。他方で、仏教保護政策下における大寺院の壮大な伽藍や広大な寺領は、国家財政^(d)への大きな負担にもなった。また奈良時代後半には、仏教が政治に深く介入して弊害もあったことから、長岡京・平安京への遷都では、奈良の大寺院の新京への移転は行われなかった。

平安時代になると、最澄が開いた天台宗、空海が開いた真言宗が広まり、密教が盛んになった。10 世紀の初めには、律令体制の行き詰まりが明確となり、地方政治が大きく変化していくなかで、各地で紛争が発生した。この時代には、そうした現世の不安から逃れようとする浄土教も流行した。1052 年から末法の世に入ると信じた当時の人びとは、法華経などの經典を山中に埋納し、^(f)のちの世に伝えようとした。

問 1. 空欄 に入る歴史用語を記せ。

問 2. 空欄 に入る，成人となる際や婚姻などに伴って行われたと考えられている風習を記せ。

問 3. 下線部(a)について，358 本の銅剣が埋納された島根県に所在する遺跡の名称を記せ。

問 4. 空欄 に入る島の名称を記せ。

問 5. 下線部(b)に関連して，法隆寺金堂の釈迦三尊像を作ったとされる人名を記せ。

問 6. 空欄 に入る，仏教によって国家の安定をはかる思想を示す歴史用語を記せ。

問 7. 下線部(c)に関連した大仏造立の詔は 743 年に近江国に所在する宮で発せられた。その時の宮の名称を記せ。

問 8. 下線部(d)に関連して，律令国家の徴税制度である庸と雑徭について，両者の違いを示しつつ 80 字以内で説明せよ。

問 9. 下線部(e)に関連して，諸国の盗賊や叛徒を平定するためにおかれ，当初は臨時の任命であったが，承平・天慶の乱以降に常置となった 2 つの令外官を記せ。

問 10. 下線部(f)について，1007 年に金銅製の容器に法華經の經典を入れて吉野の金峯山に埋納した人物の名前を記せ。

〔2〕 次の文章を読み、問1～問3に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(25点)

仏教が伝来して以降、前近代の日本では、日本に伝えられていない仏教の教義への関心や、異国で栄えている最新の仏教などへのあこがれが継続してあった。仏教聖地を巡礼したり、高僧に学ぶために、多くの日本僧が大陸に渡った。渡航先は、仏教が盛んな中国のみならず、仏教発祥の地であるインドも視野に入ることがあった。例えば、臨済宗の祖といわれる栄西は、二度目に入宋した際、インドを訪問しようと志したが、断念している。当時の日本の人びとにとっての世界とは、日本・中国・天竺(インド)という三国世界観が基本であった。仏教の影響を受けた三国世界観は、16世紀中葉以降のヨーロッパ勢力との接触によって徐々に相対化されていく。ただし、戦国時代の日本の人びとは、当初、三国世界観^(a)にもとづいてヨーロッパのものを認識しようとしたと思われる。

一方、日本には異国から多くの僧侶も海を越えてやってきた。こうした僧侶は、渡来僧とよばれている。例えば、奈良時代では東大寺大仏開眼導師として活躍したインド僧の菩提僊那や、僧尼が守るべき規範である ア を日本に伝えた唐僧の鑑真が知られている。渡来僧は、異国の仏教に憧れる日本の人びとの崇敬を集める存在であり、それは時代を越えて共通性があった。ただし、異国の僧侶が来日する人数は、日本僧が大陸に渡る人数と比較すると圧倒的に少なかった。

しかし、日本の歴史において一定程度の人数の渡来僧が来日した時代がある。それは、13世紀半ばからの約100年間と、16世紀半ばからの約200年間である。これらの時代に、商船などで来日した渡来僧や渡来「僧」とみなされた異国人たち^(b)は、当時の日本の権力者に受け入れられたり拒絶されたりしたほか、日本の文化にも影響を与えた。

問 1. 空欄

ア

 に入る歴史用語を記せ。

問 2. 下線部(a)では、鎌倉時代に活動した祖師に連なる仏教勢力(鎌倉新仏教)が、社会的に大きな影響力を発揮した。そのため、鎌倉新仏教勢力と旧仏教(頭密仏教)勢力とが衝突することもあった。このうち、大規模な争乱にまで及んだ事件名を記せ。

問 3. 次の史料A～Fの内容を踏まえながら、具体的な人名や歴史用語などを記しつつ、13世紀後半から18世紀前半までの下線部(b)の変遷について400字以内で述べよ。

史料A

禅宗の諸国に流布する事は関東に建長寺をたてられしゆへ也。

(『野守鏡』)

〔注〕『野守鏡』=1295年成立。

史料B

律僧・禅僧ノ世間ニ多クナリ侍ル事、ワヅカニ五十余年也。

(『雑談集』)

〔注〕『雑談集』=1305年成立。

史料C

^{いにしえ}古より両国の商舶は、来る者往く者海上に相望む。故に仏氏たる者、大なるときは則ち化を行い道を唱^{とな}うるの師、小なるときは則ち方に遊び法を求むるの士、^{おのおの}各其の志を遂ぐ。元朝、信を絶つの際も尚^{しか}爾り。況んや其の余をや。勘合有りてより以来、使船の外は決して往来無し。恨むべきかな。

(『善隣国宝記』)

〔注〕 仏氏＝僧侶。

大なるときは則ち化を行い道を唱^{とな}うるの師＝伝法の始祖となる高僧。

小なるときは則ち方に遊び法を求むるの士＝巡礼を主目的とする僧。

使船＝遣明船。

史料D

周防国吉敷郡山口県大道寺の事、西域より来朝の僧、仏法紹隆のため、かの寺家を創建すべきのよし、請望の旨にまかせ、裁許せしむるところの状、^{くだん}件の如し。

天文廿一年八月廿八日

周防介御判

当寺住持

(ポルトガル外務省図書館蔵「原稿」、『イエズス会宣教師書簡集』)

〔注〕 大道寺＝トーレスが大内氏から布教の拠点として許可された寺。トー

レスは、ザビエルとともに来日した宣教師。

西域＝中国より西の地域。

天文廿一年＝1552年。

周防介＝大内義長。義長は、大内義隆の後継者として陶晴賢に迎えられた大内家の当主。

史料E

一、伴天連門徒御禁制也。若し違背の族有らば、忽ち其の科を遁るるべからざる事。右の趣、御領内え急度相触れらるべく候。此旨仰せ出さるもの也。仍て執達件の如し。

慶長十七年八月六日

(『御当家令条』)

〔注〕 伴天連門徒＝キリスト教の信徒。

慶長十七年＝1612年。

史料F



〔注〕 寺観が整った元禄年間頃の様子を俯瞰して描いた絵図(部分)。主要伽藍(山門・天王殿・仏殿・法堂)を中心軸にして、左右対称に諸堂を置いて回廊で結ぶという中国式禅宗寺院の伽藍配置がよくわかる。広芝村、大和田村＝いずれも山城国宇治郡の村。

[illegible]

300 字

400 字

— 7 —

- 〔3〕 次の文章を読み、問1～問6に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(25点)

江戸時代に入ると、大坂は全国の物流が集中する経済の中心として栄えた。17世紀後半に、大坂や京都を舞台に、現世を肯定する精神に満ちあふれた元禄文化が花開いた。

大坂の町人出身であった井原西鶴は、1692年に『ア』を刊行し、大晦日の町人の悲喜劇を描写し、庶民などの新たな読者層を取り込んでいった。

元禄文化には、武士階級に出自を持つ担い手もいた。こんにち、近松門左衛門として知られる浄瑠璃・歌舞伎作者の杉森信盛は、もともと越前国の武家の出身であった。イが大坂道頓堀で人形浄瑠璃の座を立ち上げると、近松は『国性(姓)爺合戦』や『曾根崎心中』といった数々の大作を提供した。

出版が盛んになったのも元禄文化の特徴である。当時の出版目録によると、1690年代には6000点もの書籍が出版されていた。儒教書や仏教書に加え、『伊勢物語』や『徒然草』などの日本古典も出版されており、幅の広さがみてとれる。

元禄期には、多くの武家が公家から和歌の指導を受けており、和歌は武家の間でも盛んになった。5代将軍徳川綱吉のもと、側用人として権勢を振るった柳沢吉保は、幕府の役職であるウに任命された北村季吟に師事した。

問1. 空欄 ア に入る書籍名、空欄 イ に入る人名、空欄 ウ に入る歴史用語をそれぞれ記せ。

問2. 下線部(a)に関連して、諸藩が大坂で行っていた経済活動について、50字以内で説明せよ。

問3. 下線部(b)に認められた特権を2つ記せ。

問4. 下線部(c)の「国性(姓)爺」とはだれがモデルか。その人名を記せ。

問 5. 下線部(d)に関連して、当時の商業出版は活版印刷ではなく、木版印刷が主流であった。元禄期の出版情勢について書かれた史料A、および元禄期に出版された史料Bを参考にしながら、版木を彫る木版印刷が主流となった技術的要因について、50字以内で説明せよ。

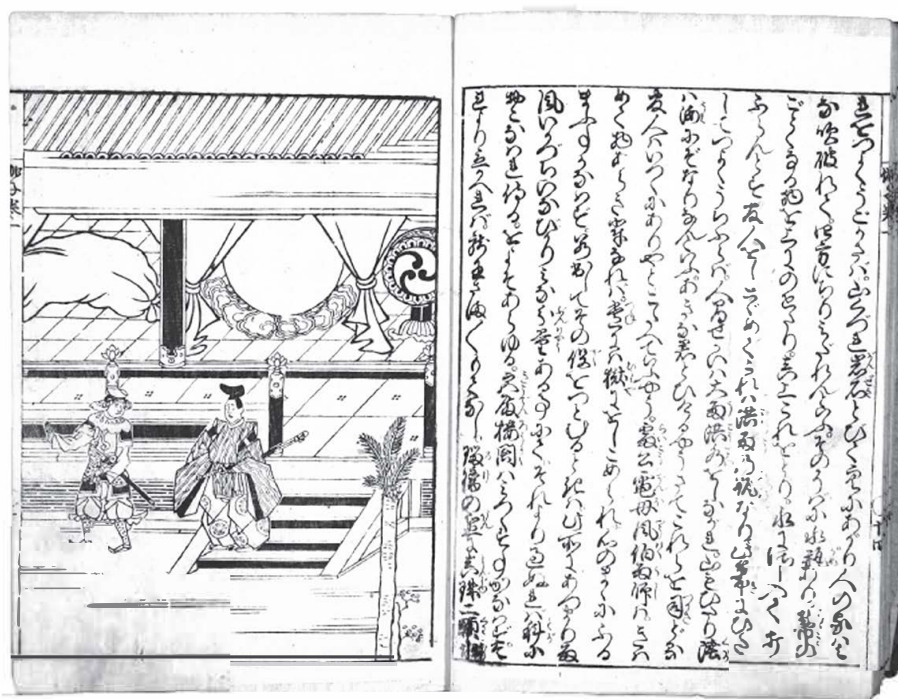
史料A

むかしより今にいたりて見ざめせずしておもしろき物は、『御伽婢子』^{おとぎぼうこ}『可笑記』^{いふち}『為愚痴物語』^{はんこう}なるべし。又近年板行^{はんこう}ありしには、『宗祇諸国物語』『武道伝来』『御前御伽』、これ等は万代不易の書なり。

(『元禄太平記』)

〔注〕 板行＝出版。

史料B



(『新板 御伽婢子』，元禄 12 (1699) 年刊)

問 6. 下線部(e)の死没後の政治状況について書かれた次の史料Cを読み、①下線部(f)に居た、もと甲府藩主の人名、②下線部(g)が指し示す法令の名称を記せ。また、③下線部(h)の法令の内容を、30字以内で説明せよ。

史料C

己丑の春、正月十日に、大喪の御事聞えて、明日は人々皆西城^(f)に参るべき由を告来れり。我も明る十一日に参る。時に封事を袖にし、詮房朝臣して奉らむと思ひしに、あふ事かなはざりしかば、その舎弟中務少輔詮衡して奉る。(中略)十九日に参りし時、元和令^(g)の事、仰下されし旨ありしかば、罷歸りて、その夜、神祖法意解一冊を撰て、明日は献らむと思ひしに、夜明ぬれば召されしかば、参りて其書をも献れり。午の終りに罷歸りしを、かさねて又召しによりて参る。この日、前代の御時に制せられし生類あはれみ^(h)といふ事をとどめられし由を承りぬ。

(『折たく柴の記』)

〔注〕 己丑＝宝永6(1709)年。

大喪＝徳川綱吉の死。

西城＝江戸城の西の丸のこと。

封事＝意見書。

詮房朝臣＝間部詮房。

中務少輔詮衡＝間部詮衡、詮房の弟。

神祖＝徳川家康のこと。

- 〔 4 〕 次の文章Aと史料Bを読み，問 1 ～問 5 に答えよ。（史料は，一部省略したり，書き改めたりしたところもある。）（25 点）

文章A

筑前国に生まれた金子堅太郎は，同郷の団琢磨^(a)らとともにアメリカ合衆国に渡り，ハーバード大学で法律学を学んだ。金子の回想によれば，アメリカ留学中に伊沢修二とともに電話器の通話実験にも参加したという。教育行政に関与した伊沢は，のちに音楽取調掛を前身として設立された ア の初代校長となった。

帰国後の金子は，東京大学予備門に教員として勤めながら，嚶鳴社などに加わっている。嚶鳴社には『日本開化小史』を著した イ も関与していた。

伊藤博文の知遇を得た金子は，井上毅らとともに大日本帝国憲法をはじめとする諸法典の起草に関わった。日本に先立つ憲法制定の動きとしては，1876年にミドハト・パシャの起草によって，ウ で憲法が制定されている。憲法制定後，金子は貴族院書記官長となり，さらに第2次伊藤内閣^(b)では農商務次官，第3次伊藤内閣では農商務大臣に就任した。

日露戦争に際しては渡米し，ハーバード大学出身の エ 大統領と会談するとともに，アメリカ国内の世論工作にあたった。その後，金子は枢密顧問官に任命された。金子が顧問官在職中の枢密院は，昭和期に金融恐慌^(c)をめぐる対応で内閣と意見を異にした。

問 1. 空欄 ア ～ エ に入る人名・歴史用語をそれぞれ記せ。

問 2. 下線部(a)が暗殺された事件の名称を記せ。

問 3. 下線部(b)の時に調印された日英通商航海条約の内容について，欧米諸国との条約改正の観点から 2 点を記せ。

問 4. 下線部(c)が発生した背景について，次の語句をすべて用いて 150 字以内で説明せよ。

戦後恐慌 手形 関東大震災

史料B

著作権保護の観点から公開しません。

(『朝日新聞』)

問 5. 史料Bは、日本の内閣総理大臣に対して送られた書簡の一部である。史料Bの内容を踏まえつつ、この書簡が作成された時代背景について、120字以内で説明せよ。

